

校地選定に係る基本方針

- （１）現校地を活用することを原則とする。
- （２）校地を併用することは原則として検討しない。
- （３）校地検討会議及び岡谷諏訪総合技術新校再編実施計画懇話会の意見交換を参考に、県教育委員会が校地を決定する。

校地選定に係る検討項目

岡谷諏訪総合技術新校（仮称）の校地を選定するにあたり、下記の項目について、校地検討会議及び岡谷諏訪総合技術新校再編実施計画懇話会の意見交換を参考に、県教育委員会が、諏訪実業高校、岡谷工業高校の校地を検討し、決定するものとする。

1 校地・校舎に係る環境

検討項目（観点）	検討にあたっての考え方
学びを支える学習環境	○専門学科の学びと、学科間連携のための学習空間・施設を確保することができる校地が望ましい。定時制の施設は独立して設置することが望ましい。
部活動の活動場所	○活動場所が確保できる校地が望ましい。（第二グラウンド等の施設の活用可否を含む。）
安全で安心な環境	○公共施設としての機能を考え、大規模な災害を想定し、より安全で安心な環境を整えることが望ましい。
近隣住民への影響	○学校での活動による騒音やほこり等、近隣住民への影響が少ない校地が望ましい。

2 通学環境

検討項目（観点）	検討にあたっての考え方
駅からの距離	○新校では、各地から生徒が集まることも想定し、駅から近い校地が望ましい。
通学状況・通学方法	○生徒が通学しやすい校地が望ましい。
通学路の状況	○通学時の安全が確保できる校地が望ましい。

3 学習活動を支える教育環境

検討項目（観点）	検討にあたっての考え方
他の学校との交流のしやすさ	○他の学校との連携や交流がしやすい校地が望ましい。
地域との交流のしやすさ	○地域の施設や企業と連携や交流がしやすい校地が望ましい。
周辺の学習環境の状況（自学、自習スペース）	○放課後の学習のための自習スペース等が使いやすい校地が望ましい。
隣接施設（公共施設等）の状況	○学校外の施設での活動を想定し、近隣の施設が使いやすい校地が望ましい。